

氏名	砂田 匠彦
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 7002 号
学位授与の日付	2024 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 社会環境生命科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Characteristics of Sleep Disturbance in Patients with Long COVID: A Retrospective Observational Study in Japan (新型コロナ後遺症患者に見られる睡眠障害の特徴に関する検討: 後 ろ向き観察研究から)
論文審査委員	教授 高木 学 教授 小林勝弘 准教授 高尾総司

学位論文内容の要旨

新型コロナ後遺症の一つに睡眠障害があるが、その詳細な病態については、未だ不明な点が多い。一方、2022 年以降、本邦でオミクロン株が主流となってからは、睡眠障害を訴える患者が増加してきた。今回、後遺症のうち睡眠障害に着目し、その臨床像および内分泌的特徴について検討した。

2021 年 2 月から、2022 年 7 月までの期間に、当科の後遺症専門外来である、コロナ・アフターケア外来を受診した患者の臨床データをカルテ抽出し、後方視的な観察研究を行った。

受診患者 363 名（男性 164 名、女性 199 人、年齢中央値 40 歳）のうち、睡眠障害を訴える 60 名（16.5%）を、睡眠障害の訴えがない 303 名（83.5%）と比較検討した。その結果、両群間の臨床背景に違いを認めなかったが、オミクロン株流行期に感染した場合の睡眠障害有病率（24.8%）は、デルタ株流行期（12.8%）の約 2 倍に増加していた。また、睡眠障害のある患者では、倦怠感・頭痛・ブレインフォグなどの症状を訴える患者の割合が増加した。内分泌検査では、睡眠障害を訴える患者において血漿 ACTH 値が有意に高く、血清 GH 値が有意に低下していた。

後遺症における睡眠障害の原因として、変異株の特性や内分泌障害の存在が示唆された。後遺症における睡眠障害は、オミクロン株流行期に感染した場合に増加し、間脳・下垂体障害を伴う可能性が示された。

論文審査結果の要旨

新型コロナ後遺症の睡眠障害については未だ不明な点が多い。2021 年 2 月～2022 年 7 月にコロナ・アフターケア専門外来を受診した患者をカルテ抽出し後方視的研究を行った。受診患者 363 名のうち 60 名（16.5%）に睡眠障害を認め、オミクロン株流行期（24.8%）は、デルタ株流行期（12.8%）の約 2 倍であった。また、睡眠障害のある患者では、倦怠感・頭痛・ブレインフォグなどの割合が増加し、血漿 ACTH 値は有意に上昇、血清 GH 値は有意に低下していた。審査員より、不眠症に注目した理由、疫学統計、研究デザインについての質問や提案、オミクロン株はなぜ不眠症が増えるのか、などの質問があった。本研究は新型コロナ後遺症における睡眠障害において、変異株の特性や内分泌障害の存在を示唆し、重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。